

アムダ水田にアヒル放つ

新庄の園児 有機栽培米販売活動資金に

新庄村野土路にある国際

医療NGO「AMDA（アムダ）」の野土路農場で2

日、米の有機無農薬栽培のためのアヒル放鳥が行われ、新庄保育所の園児ら約30人が、体長15〜20センチに育った生後10日前後の60羽を

水田に放した。

約1畝ある同農場のうちコシヒカリの苗を植えた10坪であり、園児たちは「大きくくなってね」と呼びかけながらゆっくと放鳥。狭い箱から外に出たアヒルたちは「ピーピー」と鳴きな

がら、群れを作つてうれしそうに泳ぎ回り、早速、虫をついばんでいた。

同村などによると、アヒル農法には、アヒルが害虫や水田の雑草を駆除したり、足で水をかき混ぜて水を濁らせ、草を生えにくくしたりするなどの効果があるほか、糞は肥料にもなるという。アムダでは8月中旬までアヒルを放ち、9月下旬に稲刈りを予定。収穫した米を販売して活動資金に充てたり、アムダが支援した国の在日大使館に贈ったりする。



水田に放したアヒルに「大きくなってね」と呼びかける園児たち（新庄村野土路で）